

施策評価シート（平成28年度実施分）

基本姿勢	1	安心で魅力ある「定住のしま」 ～分野2 人を大切に、人を守るまちづくり～
政 策	3	高齢者が暮らしやすい地域づくり
基本方針	高齢者が住み慣れた地域で、生きがいをもって生活できる地域環境づくりや介護予防を推進するとともに、地域における支え合い、高齢者への支援・体制などの充実・強化に取り組めます。	

基本施策	1-2-3-①	高齢者の社会参加の推進		
主管課名	福祉長寿課		所属長名	萬 屋 三 男
関係課名	生涯学習課			
1 次評価	基本施策の評価			
	○高齢者を中心とした子どもの見守り事業、学校での伝承事業など、多様な世代間交流や高齢者の生きがいがいづくりの推進			
	■平成27年度における課題等に対する取組方針			
	・ 今後ますます高齢化が進行する中で、地域の活力を維持・増進していくためには、高齢者自身が社会を支える一員として、その持てる能力や経験を十分に発揮し、生き生きと活躍する社会の実現が不可欠であるため、関係課と連携しながら取り組んでいく。			
	■平成28年度の取組概要			
	・ 高齢者の社会参加を促進するためには、シニアパワーを生かし、次世代を担う子どもとの交流活動など、様々な社会活動において活躍してもらう場の創出が求められており、事務局となっている社協と連携しながら事業を進めている。 現状としては、老人クラブ（56クラブ）の中で、33クラブが学校への行事等に参加している。特に榎津地区の老人クラブによる、地区小学校の通学の見守りや、奈良尾地区における学校の語り部などが行われている。			

■評価（問題点とその要因）	
・ 高齢者の活動は、主に老人クラブ単位で行われている。しかしながら、参加する部員が固定化し、その数も減少傾向にある。	
■今後の取組方針	
・ 活動の柱となる老人クラブが減少しないよう、活動内容等の周知や加入へ向けた声かけなど積極的に行い、高齢者の引きこもり予防及びクラブ数の維持を図っていく。	

○働く意欲のある高齢者の就労機会充実のため、シルバー人材センターと連携した社会参加活動の支援とその環境整備	
■平成27年度における課題等に対する取組方針	
・ 新たな就業の開拓や新規会員の確保等により、自立した運営を促していく。また、業務内容が民間事業所と重なるため、民間事業者を圧迫しないように務めていく。	
■平成28年度の取組概要	
高齢者の技能・経験を活かし、また生きがいがいづくりの活動拠点となるシルバー人材センターの安定した運営を図るため住民へ周知した結果、受注件数は徐々に増加している。	
■評価（問題点とその要因）	
・ 受注件数も増加しており運営も安定してきているが、業務内容が民間事業所と重なるため、民間事業者を圧迫しないように務めていく必要がある。	
■今後の取組方針	
・ 民間業者を圧迫しないように、比較的規模の大きな事業は民間業者を紹介するなど、一定の住み分けをしながら事業を推進していく。	

	○老人クラブ活動をより一層活性化するため、情報提供など会員数増加に向けた支援		
	■平成27年度における課題等に対する取組方針		
	・老人クラブも高齢化しており、存続できないクラブも出てきているため、若い世代に加入を図るとともに、閉鎖的な雰囲気改善や周知活動の活発化など、気軽に高齢者が集まれる組織として、今後も機能させていくため検討を行っていく。		
	■平成28年度取組概要		
	・若い世代に加入してもらえよう、活動方法や活動内容の見直し周知を図っているが、若い世代は仕事をしている方が多いなど、会員数は減少傾向となった。		
2次評価	■評価（問題点とその要因）		
	・老人クラブ会員の高齢化により、役員人選などの理由により存続できないクラブも出てきており、活動方法の見直しや、事務の簡素化など支援を行っていく必要がある。		
	■今後の取組方針		
	・老人クラブの役割や機能の充実を図るため、事業計画・予算・決算書作成などの支援を行いながら、健康活動、若手養成、活動への体験参加や各種イベントでのPR活動など、魅力あるクラブづくりが進むよう支援しながら加入促進に向けた取り組みを行っていく。		
	・老人クラブ連合会及びシルバー人材センターは、高齢者が就業やボランティア活動を通じて社会参加を勧める上で重要な役割を果たしているため、引き続き支援を行っていくこと。		
基本施策	1-2-3-②	高齢者を支える地域環境づくり	
主管課名	福祉長寿課	所属長名	萬 屋 三 男
関係課名			
	基本施策の評価		
	○一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が、地域で支えられながら安心して暮らすことができるよう、地域における支援体制の整備		
	■平成27年度における課題等に対する取組方針		
	・「生活支援コーディネーター」の役割を理解してもらうため、地域の問題を探る地域座談会を開催していく。また、地域での困りごとや悩みごとを解決し、充実した生活支援を進めるための「協議体」を日常生活圏域ごとに設け、課題解決に向けて協議する場を設ける。		
	■平成28年度取組概要		
	・生活支援コーディネーター業務を町社会福祉協議会に委託し、多様な介護予防や日常生活支援に取り組む第1層、第2層協議体を、町内5地区に設置し、懇談会等を通じて、地域のニーズ（見守り・買物支援 など）を洗い出し、次年度以降の目標を設定する体制を作り出した。		
	■評価（問題点とその要因）		
	・町社会福祉協議会の本所・支所機能体制のもと、社協で地域活動を支援する仕事に取り組んで来た経験が、生活支援コーディネーターのスムーズな活動に結びついた。協議体においては、社協と地域包括支援センターが中心となって、地域の実情や特性、高齢者のニーズなどを十分に捉えると共に、多様な関係主体間で情報を共有し、連携・協働による取り組みの推進を図っていく必要がある。		
	■今後の取組方針		
	・地域内外の活動団体の横のつながりをつくり、お互いの活動内容を把握し、地域の中で不足しているサービス、必要なサービスを明らかにし、サービスの充実を目指す。		
	○高齢者の介護予防支援及び介護者の自立支援		
	■平成27年度における課題等に対する取組方針		
	・従事スタッフのマンパワーの確保やケアプラン作成の簡略化、介護者のニーズ把握や関係機関とのネットワーク推進を図りながら、介護予防支援及び介護者の自立支援に努めていく。		

1 次評価

■平成28年度 of 取組概要

・制度改正により平成29年度からスタートする「介護予防・日常生活支援総合事業」への移行を踏まえケアプランの様式の見直しと周知をはじめとする自立支援に関する考え方について関係機関や従事者への説明会を開催した。

■評価（問題点とその要因）

・従事スタッフのマンパワーの確保については介護福祉現場の慢性的な人材不足もあり解決が難しい。またマンパワー不足は新制度や取り組みを進める弊害となる。

■今後の取組方針

・第7次介護保険事業計画策定を踏まえ、介護者のニーズ把握と関係機関への調査を行い、課題抽出を進めネットワーク推進を図る。

○地域ミニデイサービスなどを実施し、高齢者の健康に対する関心の充実

■平成27年度における課題等に対する取組方針

・介護予防サポーターを育成し支援体制を整える。関係機関との連携により講師等を派遣し多方面からサポートする。
・訪問系サービスの検討

■平成28年度 of 取組概要

・介護予防サポーター養成講座を開催し18名養成。地域の目王グループに派遣し、活性化に努めている。
・自主グループに派遣できる講師を登録し、自主グループの希望を確認し派遣している。
・介護保険等何らかのサービス支援が得られていない方々に訪問し、実態把握、支援に努めている。

■評価（問題点とその要因）

・介護予防サポーターを増やすとともに、活動しやすい体制づくりが必要である。
・自主サークルに派遣できる講師の人材が限られている。
・集団の場に参加しない（できない）人の実態把握、支援が今後必要である。

■今後の取組方針

・介護予防サポーター養成講座を毎年開催し増員を図るとともに、養成後は月1回定例会を開催し活動継続しやすい体制づくりに努める。
・自主サークルに派遣できる講師の登録（追加）
・介護保険等何らかのサービス支援が得られていない方々に訪問し実態把握、支援に努める。

○高齢者世帯への訪問・声かけ・相談・緊急時の対応等により孤立感の防止と安否確認など、地域と関係機関が連携した社会福祉の推進

■平成27年度における課題等に対する取組方針

・一人暮らしの高齢者が、住み慣れた地区で安心して暮らすためにも、サポート体制の周知とともに今後の事業拡大に向けて取り組むことが必要である。

■平成28年度 of 取組概要

・高齢者見守りネットワーク事業によって、在宅の一人暮らしの高齢者等が地域から孤立することを防止するとともに、その異変を早期に発見して必要な援助を行った。

■評価（問題点とその要因）

・高齢者見守りネットワーク事業を実施しているのは、町内8箇所に留まっている。

■今後の取組方針

・高齢者見守りネットワーク事業の実施箇所を増やすべく、これまで以上に広報周知に力を入れる。そのために生活支援コーディネーター事業などを通じして、ニーズの把握に努める。

○高齢者集落の通院、買い物など高齢者への生活支援

■平成27年度における課題等に対する取組方針

・今後は未利用者への浸透を図るため、地域に入り込みながら高齢者への周知と理解に向けた展開を図るなど、新たな取り組みについて検討していく。

	■平成28年度の取組概要 ・高齢者への周知と理解に向けた展開を図るなどの新たな取り組みについては実施していない。周知のために町広報誌に取組みを掲載した。なお、民間事業所が実施している買い物困難者支援として、カミティによる買い物困難者支援移送及びAコープ浦桑店、小林大洋堂による無料配達などの実態把握に努めた。 ■評価（問題点とその要因） ・買い物支援については、利用率も上がってきており概ね好評である。通院については、平成28年度から開始した生活支援コーディネーター事業において、地域別のニーズの洗い出しを行い、隣人で乗り合わせができる人、できない人など現状を把握したところである。 ■今後の取組方針 ・買い物支援については、引き続き情報発信を強化していく。高齢者の通院については、生活支援コーディネーター事業で検討している「有償ボランティア」の推進に向け、法律（道路運送法）等の現状を把握するための調査を行っていく。		
2次評価	・地域ボランティアや事業所等により、見守り・買い物支援が効果的に進められている。今後は生活支援コーディネーター事業を中心に、見守り、買い物支援など事業強化しながら支援体制の整備を構築していくこと。		
基本施策	1-2-3-③	介護福祉基盤の整備・充実	
主管課名	福祉長寿課	所属長名	萬 屋 三 男
関係課名			
1次評価	基本施策の評価		
	○介護保険制度の円滑な運営の推進及び制度の正しい認識の定着のための啓発活動 ■平成27年度における課題等に対する取組方針 ・介護保険制度は「予防重視型」へと大きく転換され、高齢者が心身ともに自立した状態で、健康寿命の延伸を図ることが求められている。そこで、介護予防の意義や必要性について、高齢者みならずより若世代に対してもさまざまな機会を活用してさらなる介護予防の普及啓発を進める。		
	■平成28年度の取組概要 ・「めじろ88」による啓発や、認知症講座、各種介護予防事業の開催を実施し、介護予防の普及啓発に努めた。 ■評価（問題点とその要因） ・予防重視型への転換期であり、計画通りの実施ができた。しかし、すべての地区で事業が実施できている状況ではないため、更なる取り組みが必要である。 ■今後の取組方針 ・平成29年度から総合事業が実施されることに伴い、予防事業の充実が図られる。今後は、総合事業を中心とした事業の展開を図っていく。		
	○介護者の相談等を包括的に支援するため、地域包括支援センターのより一層の充実 ■平成27年度における課題等に対する取組方針 ・家族の抱えるニーズについて情報収集する必要がある、また、必要な専門職の確保とスキルアップが必要であるため、地域包括支援センターの体制強化を図り支援の充実に努めていく。 ■平成28年度の取組概要 ・家族ニーズの把握については日常生活圏域ニーズ調査を実施すべくアンケートの作成と配布を行った。回収、集計分析作業を平成29年度に行う。 ・センター職員の欠員に対しては補充に努めるとともに、新規職員としてケアマネジャー職を公募した。また、スキルアップを目的として研修の機会も確保した。		

	■評価（問題点とその要因） ・スタッフ確保については、慢性的な専門職の人材不足から今後も継続課題となる。 ■今後の取組方針 ・ニーズ調査の分析を行うとともに、介護者の包括的な支援体制を整えられるように地域包括ケアシステムの構築を進める。また、包括支援センターの体制強化のために引き続き専門職の確保と資質向上に努める。 ○介護が必要な高齢者に対する、住み慣れた地域での生活を支える地域密着型サービスや在宅福祉サービスの充実 ■平成27年度における課題等に対する取組方針 ・地域包括ケアシステム実現に向けた業務は介護保険関連にとどまらず、医療機関、地域のボランティア、子育てに関係する事業者をはじめ、多領域に及ぶことから、今後はしっかりした組織を構築して柔軟性を持って取り組むことが必要である。 ■平成28年度の取組概要 ・介護予防・日常生活支援総合事業の平成29年度スタートに向けて、緩和型サービスや生活支援サービスの担い手の掘り起こし（事業者・ボランティア団体への説明）を行った。 ・在宅医療介護連携支援センターの運営業務を上五島病院地域医療連携室に委託し、医療介護との連携体制強化に努めた。 ■評価（問題点とその要因） ・新たな事業の担い手として発掘できた事業者は2ヶ所にとどまっている。 ■今後の取組方針 ・ニーズ調査や地区座談会、地域ケア会議等で明らかになった地域課題解決のために必要なサービスや互助活動について、住民・各種団体・各自業者との協議を重ねていく。
	2次評価 ・引き続き、地域包括ケアシステムの構築など、地域密着型介護予防サービスの適切な運営を図るため、関係機関等と連携してサービス基盤整備を強化していくこと。

成果指標等の達成状況

指標名		基準値	H27	H28	H29	H30	H31
シルバー人材センター 会員数	目標	-	-	-	85人	95人	100人
	実績	54人	84人	77人	-	-	-
	達成率	-	100% (100%)	100% (100%)	-	-	-
見守りネットワーク地区数	目標	-	-	-	9地区	10地区	14地区
	実績	6地区	8地区	8地区	-	-	-
	達成率	-	25% (100%)	25% (62.5%)	-	-	-
介護保険住宅改修者数	目標	-	-	-	110人	112人	114人
	実績	106人	125人	118人	-	-	-
	達成率	-	100% (100%)	100% (100%)	-	-	-

施策事業の進捗状況

1-2-3-① 高齢者の社会参加の推進

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成27年度	平成28年度
1	(事業名) 長寿祝金事業 【福祉長寿課】 (事業目的) 長寿を祝福し祝いを支給することで、多年にわたり地域社会の発展に貢献してきた高齢者に敬意を表すことを目的とする。 (事業概要) 町内に1年以上住所を有し、満100歳に達した高齢者に対し祝金20万円を支給する。	実施年度	平成16年度～	
		成果指標	支給率	
		目標値	100%	100%
		実績値	100%	100%
		達成率	100%	100%
		決算（見込）額	1,014千円	1,828千円
		成果指標及び目標値の説明	支給対象者の全ての方へ祝金を支給する。	
2	(事業名) 敬老祝金事業 【福祉長寿課】 (事業目的) 長寿を祝福し祝いを支給することで、多年にわたり地域社会の発展に貢献してきた高齢者に敬意を表すことを目的とする。 (事業概要) 9月1日現在で、70歳、80歳、90歳の高齢者に対し、祝い金1万円を支給する。	実施年度	平成16年度～	
		成果指標	支給率	
		目標値	100%	100%
		実績値	100%	100%
		達成率	100%	100%
		決算（見込）額	6,388千円	6,478千円
		成果指標及び目標値の説明	支給対象者の全ての方へ祝金を支給する。	
		取組実績、成果・課題等	(取組実績) 5名の対象者に対し支給した。 (成果・課題等) 高齢化社会にあつて、社会情勢を踏まえながら対象及び目的の絞込み、実施方法の改善等、制度のあり方を検討していく。	(取組実績) 9名の対象者に対し支給した。 (成果・課題等) 高齢化社会にあつて、社会情勢を踏まえながら対象及び目的の絞込み、実施方法の改善等、制度のあり方を検討していく。
		取組実績、成果・課題等	(取組実績) 638名の対象者に対し支給した。 (成果・課題等) 高齢化社会にあつて、社会情勢を踏まえながら対象及び目的の絞込み、実施方法の改善等、制度のあり方を検討していく。	(取組実績) 647名の対象者に対し支給した。 (成果・課題等) 高齢化社会にあつて、社会情勢を踏まえながら対象及び目的の絞込み、実施方法の改善等、制度のあり方を検討していく。

1-2-3-① 高齢者の社会参加の推進（つづき）

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成27年度	平成28年度
3	(事業名) 地区敬老会補助事業 【福祉長寿課】 (事業目的) 多年にわたり地域社会に尽くした高齢者を敬愛し、地域ぐるみで長寿を祝うため、敬老事業を実施する地区等に対し、その経費を助成する。 (事業概要) 敬老事業を実施する地区等に対し、対象者（9月1日現在70歳以上）1人当たり1,500円の助成を行う。 平成29年度より要綱改正。 対象者（9月1日現在で、敬老事業実施年度末までに70歳以上になる者）	実施年度	平成16年度～	
		成果指標	敬老事業実施地区	
		目標値	5地区	5地区
		実績値	5地区	5地区
		達成率	100%	100%
		決算（見込）額	9,204千円	9,029千円
		成果指標及び目標値の説明	長寿を祝う敬老行事を開催した地区を成果指標とした。	
4	(事業名) 単位老人クラブ補助事業 【福祉長寿課】 (事業目的) 単位老人クラブが行う各種活動が円滑に実施できるよう助成することで、高齢者のいきがい対策の推進を目的とする。 (事業概要) 各単位老人クラブに対する、活動運営費の補助。 （1クラブ47,000円）	実施年度	平成16年度～	
		成果指標	単位老人クラブ数	
		目標値	55クラブ	56クラブ
		実績値	55クラブ	56クラブ
		達成率	100%	100%
		決算（見込）額	2,585千円	2,632千円
		成果指標及び目標値の説明	前年度の単位老人クラブ数を目標値としている。	
		取組実績、成果・課題等	(取組実績) 全地区において敬老事業等を自主開催することができた。 (成果・課題等) 引き続き、地域で自主開催していくため、各地域と連携して支援していく。	(取組実績) 全地区において敬老事業等を自主開催することができた。 (成果・課題等) 各地域と連携して支援していく。 地区によっては、トラブルも出ており今後のあり方について検討が必要。（参加者、不参加者での補助金の使い方等）
		取組実績、成果・課題等	(取組実績) 55の単位老人クラブの活動に対し、補助金を交付した。 (成果・課題等) クラブ会員の高齢化等により新規会員の参加が少なくなっているが、老人クラブ連合会との連携により、高齢者の健康増進・生きがい対策等施策目的の実現に向け実施していく。	(取組実績) 56の単位老人クラブの活動に対し、補助金を交付した。 (成果・課題等) 新規クラブが1クラブ増えた（荒川地区） クラブ会員の高齢化等により新規会員の加入が少なくなっている。 若い世代の加入促進が今後の課題。

1-2-3-① 高齢者の社会参加の推進（つづき）

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成27年度	平成28年度
5	（事業名） 老人クラブ連合会補助事業 【福祉長寿課】 （事業目的） 老人クラブ連合会が行う各種活動が円滑に実施できるよう助成することで、高齢者のいきがい対策の推進を目的とする。 （事業概要） 老人クラブ連合会の運営に係る経費について、予算の範囲内にて助成する。	実施年度	平成16年度～	
		成果指標	老人クラブ会員数	
		目標値	3,003人	2,771人
		実績値	2,771人	2,710人
		達成率	92.3%	97.8%
		決算（見込）額	2,993千円	3,362千円
		成果指標及び目標値の説明	前年度の老人クラブ会員数を目標値としている。	
6	（事業名） シルバー人材センター運営費補助事業 【福祉長寿課】 （事業目的） 働く意欲をもっている健康な高齢者が生きがいとその能力を生かして、地域社会に貢献できるようにするため、シルバー人材センターの円滑な事業運営と安定した基盤ができるまで支援するものである。	取組実績、成果・課題等	（取組実績） 会員の高齢化や趣味や嗜好の多様化などにより、会員数は減少傾向にある。 （成果・課題等） 会員数の減少を抑制するため、クラブ役員等と協力し、各種事業の見直し、改善を進め、クラブの活性化を進める。	（取組実績） 会員の高齢化や趣味や嗜好の多様化などにより、会員数は減少傾向にある。 （成果・課題等） 会員数の減少を抑制するため、クラブ役員等と協力し、各種事業の見直し、改善を進め、クラブの活性化を進める。各種スポーツ大会や三代交流等実施した。
			（取組実績） 総合計画の目標値を達成することができた。	（取組実績） 人員の整理等を行ったことに伴い、会員数が減少した。
			（成果・課題等） 地方創生総合戦略においてKPIを100名と目標設定した。KPI達成に向け啓発活動等の充実に努め会員数の増加を目指す。	（成果・課題等） 地方創生総合戦略においてKPIを100名と目標設定した。KPI達成に向け啓発活動等の充実に努め会員数の増加を目指す。
6	（事業名） シルバー人材センター運営費補助事業 【福祉長寿課】 （事業目的） 働く意欲をもっている健康な高齢者が生きがいとその能力を生かして、地域社会に貢献できるようにするため、シルバー人材センターの円滑な事業運営と安定した基盤ができるまで支援するものである。	実施年度	平成21年度～	
		成果指標	シルバー人材センター会員数	
		目標値	75名	100名
		実績値	84名	77名
		達成率	112%	77%
		決算（見込）額	1,576千円	1,576千円
		成果指標及び目標値の説明	総合戦略においてKPIを100名としている。	
6	（事業概要） シルバー人材センターに1名のプロパーを雇用したことに伴い、人件費、運営事務費相当分を補助するもの。	取組実績、成果・課題等	（取組実績） 総合計画の目標値を達成することができた。	（取組実績） 人員の整理等を行ったことに伴い、会員数が減少した。
			（成果・課題等） 地方創生総合戦略においてKPIを100名と目標設定した。KPI達成に向け啓発活動等の充実に努め会員数の増加を目指す。	（成果・課題等） 地方創生総合戦略においてKPIを100名と目標設定した。KPI達成に向け啓発活動等の充実に努め会員数の増加を目指す。

1-2-3-② 高齢者を支える地域環境づくり

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成27年度	平成28年度
1	(事業名) 高齢者見守りネットワーク事業 【福祉長寿課】 (事業目的) ・在宅の一人暮らしの高齢者等が地域から孤立することを防止するとともに、その異変を早期に発見して必要な援助を行い、保健・医療・福祉等のさまざまな課題に対する相談支援体制を充実させる。 (事業概要) ・見守り協力員は、日常生活の中で声かけや見守り（訪問・姿・灯りの確認等）を行い、協力事業所は、日頃の業務・活動中におけるさりげない見守りを行っている。また見守り協力員からは、1か月に一度登録者の見守り活動状況報告書の提出がなされている。	実施年度	平成23年度～	
		成果指標	登録者数	
		目標値	82人	82人
		実績値	84人	85人
		達成率	102%	103%
		決算（見込）額	210千円	155千円
		成果指標及び目標値の説明	前年度の登録者数を目標値としている。	
		取組実績、成果・課題等	(取組実績) 見守り協力員の連絡による高齢者の安否については、登録者の行き先確認、身体の見守りに繋がった過去の事例からも成果をもたらしている。 (成果・課題等) 一人暮らしの高齢者が、住み慣れた地区で安心して暮らすためにも、サポート体制の周知とともに事業拡大が必要である。	(取組実績) 見守り協力員の連絡による高齢者の安否については、登録者の行き先確認、身体の見守りに繋がった過去の事例からも成果をもたらしている。 (成果・課題等) 地区説明会などで説明・呼びかけを行っているが、他地区への広がりが不十分。生活支援コーディネーター業務などで、ニーズの掘り起こしを行う必要がある。

1-2-3-③ 介護福祉基盤の整備・充実

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成27年度	平成28年度
1	(事業名) 介護人材育成支援事業 【福祉長寿課】 (事業目的) 介護職員の人材確保及び資質向上を図るため、研修の開催・参加に係る経費を負担する。 (事業概要) ①町内の社会福祉法人等が主催する研修 ⇒受講料を除く4分の3以内 ②町内で行われる介護関連研修を受講する者を有する社会福祉法人等 ⇒受講料の2分の1以内 ③島外で行われる更新研修等を受講する者を有する社会福祉法人等 ⇒受講に要した費用の2分の1以内。ただし、受講料等は補助対象外。	実施年度	平成28年度～	
		成果指標	研修受講者数	
		目標値	-	40人
		実績値	-	22人
		達成率	-	55%
		決算（見込）額	-	427千円
		成果指標及び目標値の説明	補助を行っている町社会福祉協議会が主催する介護職員初任者研修へ受講した受講者数を指標とした。	
		取組実績、成果・課題等	(取組実績) (成果・課題等)	(取組実績) 町社会福祉協議会が主催する「介護職員初任者研修」に対し、受講料等の収入を差引いた額427千円を補助した。 ※全体額1,035千円 1/2以内 ※受講者22名全員研修終了 (成果・課題等) 現場で不足している介護職員の基礎的なスキルアップが図られた。